

## 1 青森県の推計人口（平成15年1月1日現在）

県人口	1,467,024人	（対前月 445人減少、対前年同月 5,926人減少）
自然動態	264人減少	（出生者数 898人、死亡者数 1,162人）
社会動態	181人減少	（転入者数 3,165人、転出者数 3,346人）

## 2 本県の経済動向

### (1) 経済概況

本県経済の動向をみると、雇用情勢ではなお厳しい状況が続いているが、鉱工業生産指数が2ヶ月連続で前月及び前年同月をともに上回り、住宅着工戸数が3ヶ月連続で前年同月を上回るなど生産や需要の一部に持ち直しの動きがみられる。

### (2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産 平成14年11月の青森県鉱工業生産指数（平成7年=100）は、季節調整済指数が83.9で、前月比3.8%の上昇となり、2ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は88.8で、前年同月比10.4%の上昇となり、2ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成14年11月の現金給与総額（5人以上）は242,199円で名目賃金指数（平成12年=100）では84.4となり、前年同月比1.3%減となった。所定外労働時間（5人以上）は9.1時間で、所定外労働時間指数では105.8となり、前年同月比6.9%増となった。 … 3
- (2-3) 物価 平成14年12月の青森県消費者物価指数は、総合指数で100.4となり、前月と同水準となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成14年11月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比7.4%増の164億1千1百万円となったものの、既存店ベースでは前年同月比3.5%減と昨年2月以来連続してのマイナスとなった。平成14年11月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,135台で、前年同月比7.3%の増となり、2ヶ月ぶりに前年を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成14年11月の新設住宅着工戸数は1,008戸で、分譲住宅の伸びにより前年同月比17.3%増と3ヶ月連続で増加した。 … 6

### (3) 景気動向指数（平成14年11月分）

先行指数	83.3%	（7か月連続50%を上回った）
一致指数	72.2%	（4か月連続50%を上回った）
遅行指数	64.3%	（5か月連続50%を上回った）

### (4) 景気ウォッチャー調査（平成15年1月期）

3か月前と比べた景気の現状判断DI	34.1	（前期比1.3ポイント減）
3か月後の景気の先行き判断DI	33.8	（前期比2.9ポイント減）

# 1 青森県の推計人口（平成15年1月1日現在）

## 【概況】

平成15年1月1日現在の本県推計人口は、1,467,024人で、前月に比べ445人、前年同月と比べると、5,926人それぞれ減少となった。

### ○自然動態

出生者数が898人、死亡者数が1,162人で、264人の減少となった。

12月中の統計としては、出生者数と自然増加数が過去（昭和41年以降。）最少となった。

### ○社会動態

転入者数が3,165人、転出者数が3,346人で、181人の減少となった。

### ○人口の回復状況

3月中の移動（転出超過等）に対する、4月から1月までの移動（転出超過等）による人口の回復状況は50.2%（前年同月73.4%）となり、平成5年以降の同時期との比較では、最も回復が遅れている。

## 総人口の推移

（単位：人）

年 月	総 数		対前月増 減率	増加数	自然増加数			社会増加数		
	男	女			出生者数	死亡者数	社会増加数	転入者数	転出者数	
平 2.10.1	1,482,873	704,758	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
14. 1. 1	1,472,950	700,689	-0.004%	-55	-216	976	1,192	161	3,075	2,914
14. 2. 1	1,472,741	700,550	-0.014%	-209	-233	1,022	1,255	24	2,987	2,963
14. 3. 1	1,471,961	700,099	-0.053%	-780	-146	915	1,061	-634	2,802	3,436
14. 4. 1	1,462,050	694,352	-0.673%	-9,911	-144	997	1,141	-9,767	7,601	17,368
14. 5. 1	1,467,713	697,949	0.387%	5,663	-28	1,106	1,134	5,691	12,926	7,235
14. 6. 1	1,467,873	698,055	0.011%	160	11	1,149	1,138	149	3,625	3,476
14. 7. 1	1,467,528	697,874	-0.024%	-345	-44	967	1,011	-301	2,749	3,050
14. 8. 1	1,467,434	697,787	-0.006%	-94	47	1,140	1,093	-141	4,036	4,177
14. 9. 1	1,468,047	698,220	0.042%	613	24	1,082	1,058	589	4,412	3,823
14.10.1	1,467,788	698,013	-0.018%	-259	-14	1,046	1,060	-245	3,401	3,646
14.11.1	1,467,882	698,023	0.006%	94	37	1,160	1,123	57	3,858	3,801
14.12.1	1,467,469	697,786	-0.028%	-413	-248	946	1,194	-165	2,913	3,078
15. 1. 1	1,467,024	697,542	-0.030%	-445	-264	898	1,162	-181	3,165	3,346

## 12月中の人口動態の推移

（単位：人）

年 月	平5.12	6.12	7.12	8.12	9.12	10.12	11.12	12.12	13.12	14.12
出生者数	1,118	1,134	1,090	1,120	1,060	1,053	1,000	1,015	976	898
死亡者数	1,039	1,023	958	1,116	994	1,048	1,089	1,065	1,192	1,162
自然増加数	79	111	132	4	66	5	-89	-50	-216	-264

## 3月中の移動（転出超過等）に対する、4月から1月までの移動（転出超過等）による人口の回復状況

年月日	平6.1.1	7.1.1	8.1.1	9.1.1	10.1.1	11.1.1	12.1.1	13.1.1	14.1.1	15.1.1
回復状況	91.2%	111.5%	106.6%	96.4%	88.4%	78.9%	74.7%	78.9%	73.4%	50.2%

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成14年1月1日から平成15年1月1日までの人口は平成12年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増加数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 社会動態の算定には、県間移動数に加え、県内市町村間移動数を含めている。

## 2 本県の経済動向

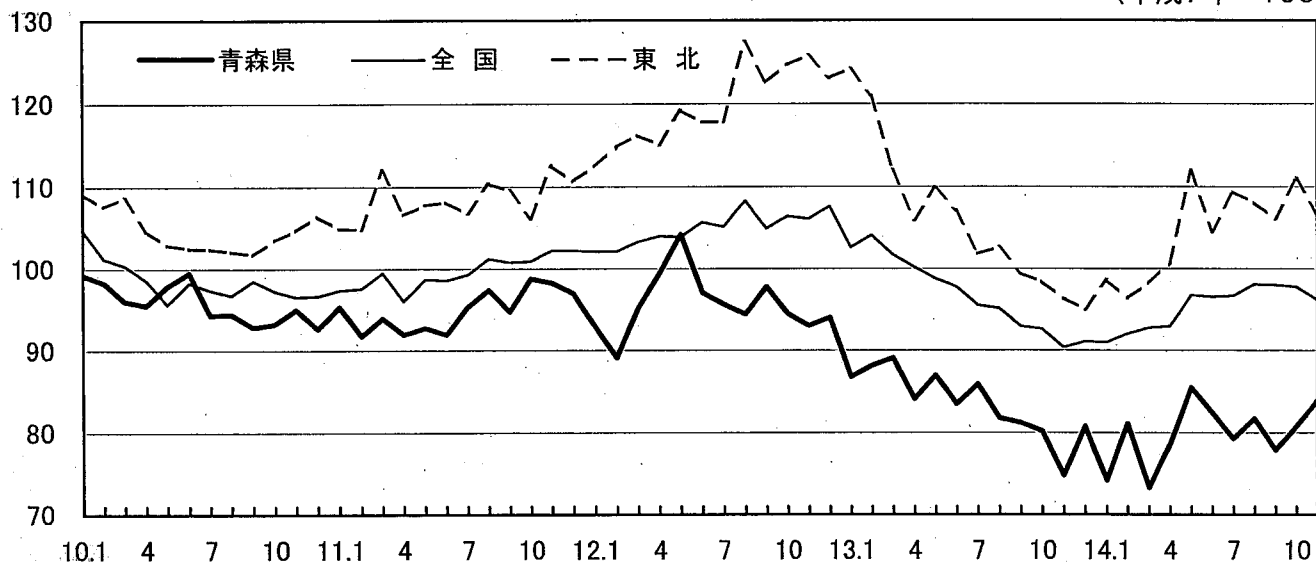
### (2) 主要経済指標の動向

#### (2-1) 製造業の生産

平成14年11月の青森県鉱工業生産指数(平成7年=100)は、季節調整済指数が83.9で、前月比3.8%の上昇となった。また、原指数は88.8で、前年同月比10.4%の上昇となった。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、化学工業、金属製品工業、一般機械工業などが上昇に寄与した一方、その他製品工業、電気機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業などが低下し、鉱工業全体では3.8%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数) (平成7年=100)

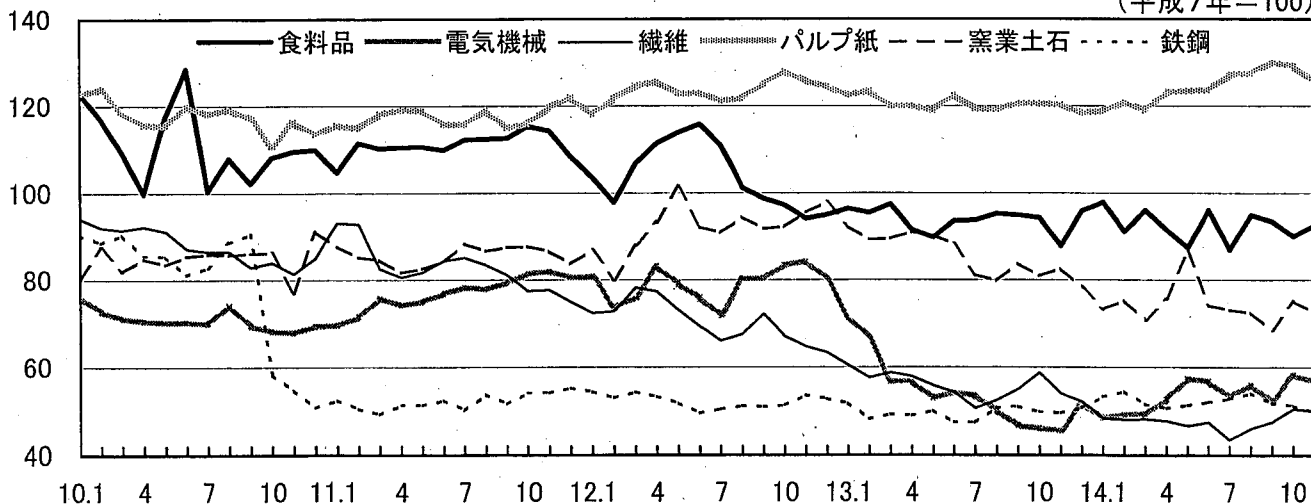


◎業種別動向(前月比)

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
<b>(鉱工業)</b>					
	<b>3.8</b>	<b>100.0</b>			
化学工業	380.7	64.4	その他製品工業	-43.4	-12.8
金属製品工業	83.9	45.9	電気機械工業	-2.4	-5.3
一般機械工業	18.7	13.8	パルプ・紙・紙加工品工業	-2.8	-5.3
食料品工業	2.8	13.5	窯業・土石製品工業	-3.2	-3.2
精密機械工業	7.7	3.7	輸送機械工業	-18.1	-3.0

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成7年=100)

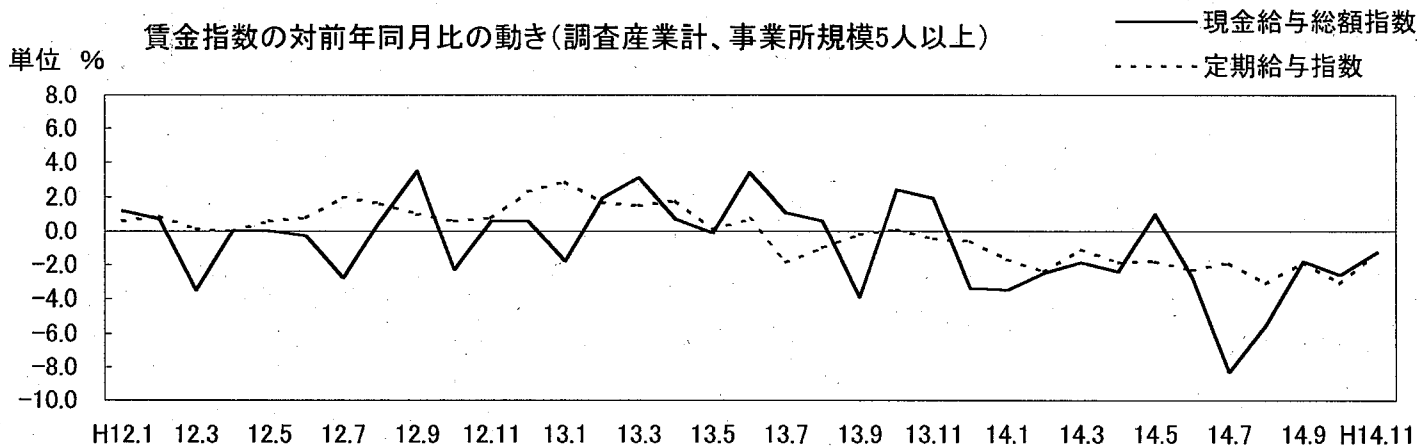


資料: 県統計情報課「鉱工業生産指数月報」

## (2-2) 雇用情勢

平成14年11月の現金給与総額は242,199円で現金給与総額指数(平成12年=100)では84.4となり、前年同月比1.3%減となった。このうち、定期給与は232,328円で定期給与指数では98.3となり、前年同月比1.2%減となった。実額で比較した定期給与の全国対比は82.6となった。

所定外労働時間は9.1時間で、所定外労働時間指数では105.8となり、前年同月比6.9%増となった。



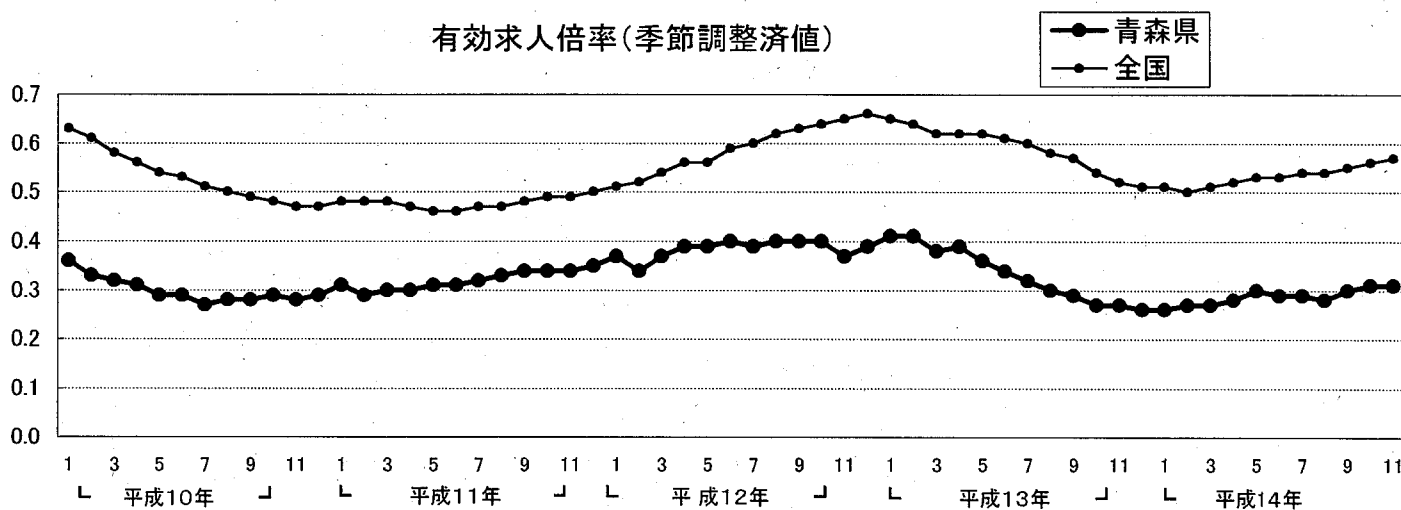
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	242,199 円	293,524 円	84.4	82.5	-1.3 %	-0.8 %
定期給与	232,328 円	281,320 円	98.3	99.0	-1.2 %	-0.6 %
特別給与	9,871 円	12,204 円	—	—	—	—
総実労働時間	162.0 時間	157.3 時間	102.1	101.7	-1.6 %	-1.0 %
所定内労働時間	152.9 時間	147.2 時間	101.9	101.7	-2.2 %	-1.5 %
所定外労働時間	9.1 時間	10.1 時間	105.8	102.0	6.9 %	6.5 %

(注) 1. 定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。2. 前年同月比は指数によって算出している。

資料: 県統計情報課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

有効求人倍率(季節調整済値)



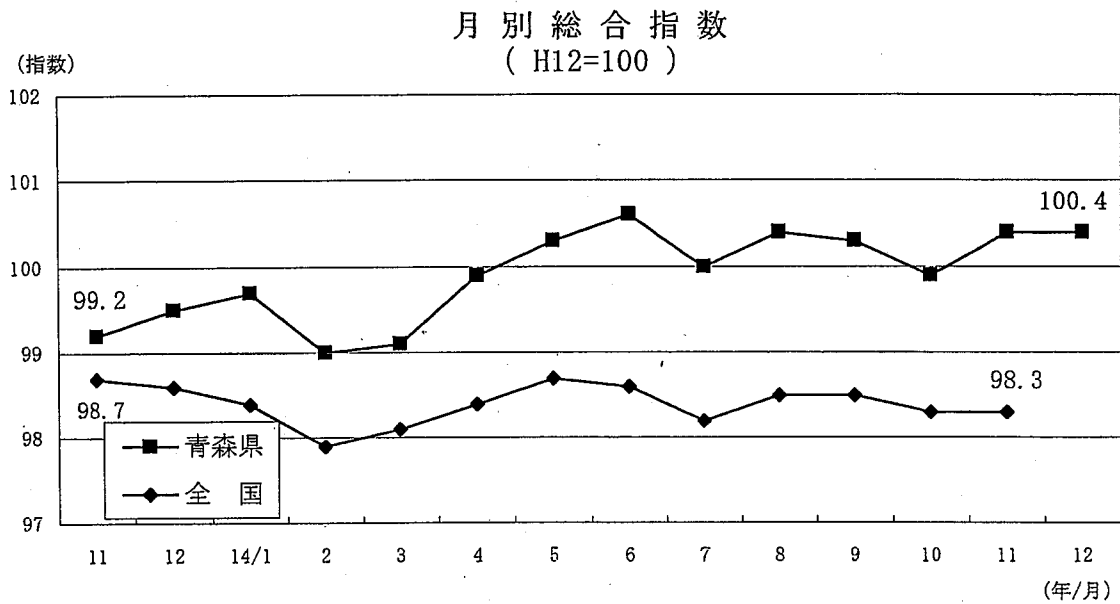
資料: 青森労働局職業安定部職業安定課

### (2-3) 物価

平成14年12月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で100.4となり、前月と同水準、前年同月比は0.9%上昇した。

前月指数と比較すると、「家具・家事用品」は、家庭用耐久財（電気洗濯機・電気カーペット等）の値下がり等により下落した。

「被服及び履き物」は、衣料（冬物の婦人洋服等）の値上がり等により上昇した。



### 10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

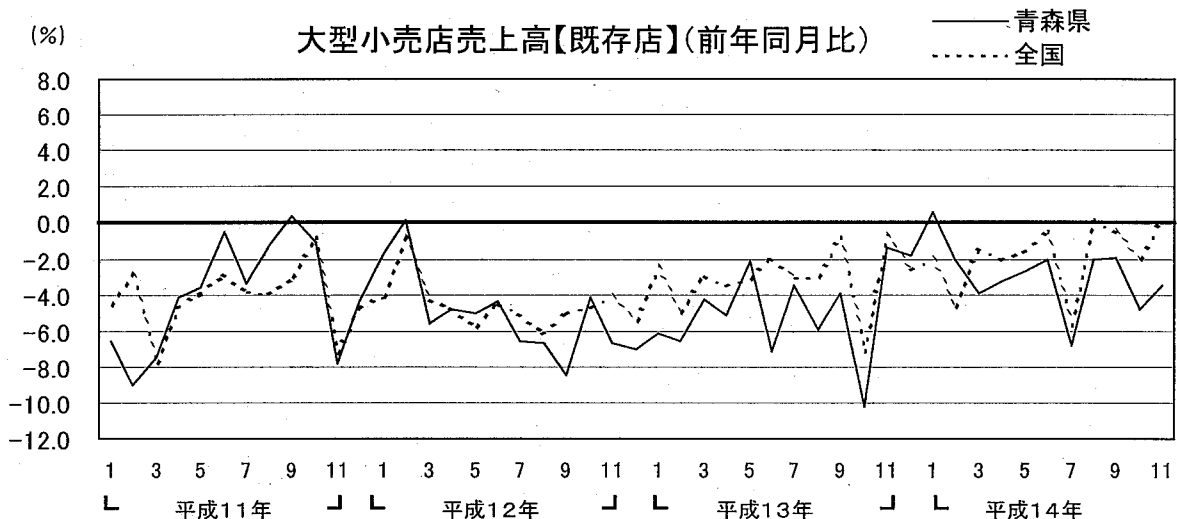
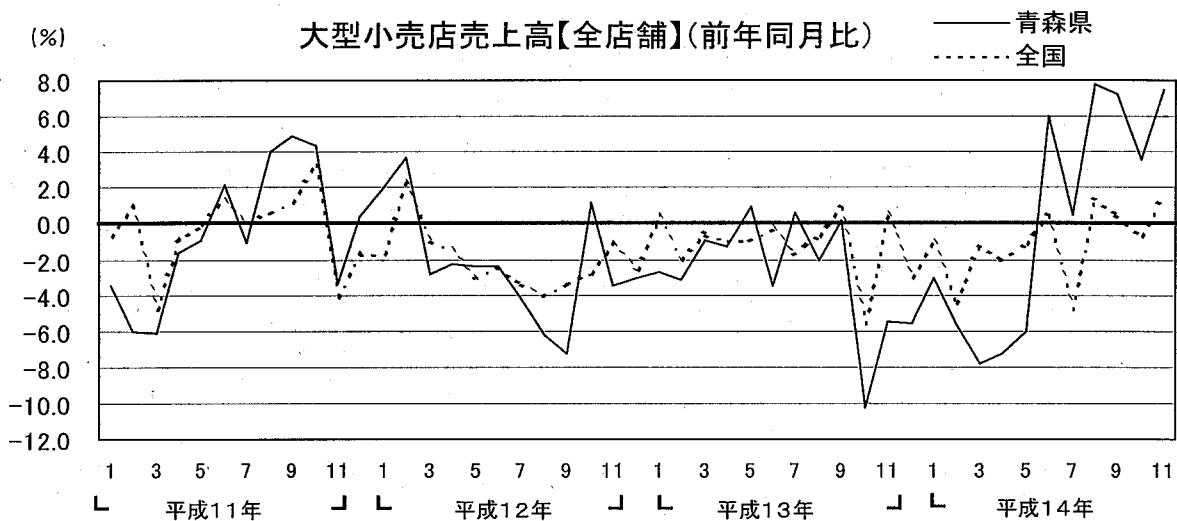
	総合	総合 (持ち家の 帰属家賃を 除く)	総合 (生鮮 食品を除く)	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服及 び履 き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養娯 楽	諸雑費
当月指数	100.4	99.1	100.5	101.0	99.1	106.4	98.3	94.3	100.4	104.3	97.2	105.6	92.6	99.6
前月比	0.0	0.1	0.0	0.1	0.9	0.0	0.5	▲1.4	0.8	▲0.1	0.0	0.0	0.1	0.0
前年同月比	0.9	0.5	0.6	2.1	8.7	2.8	▲2.4	▲0.5	0.0	3.1	▲0.9	3.8	▲1.4	▲0.1

資料：県統計情報課「青森県消費者物価指数月報」

## (2-4) 個人消費

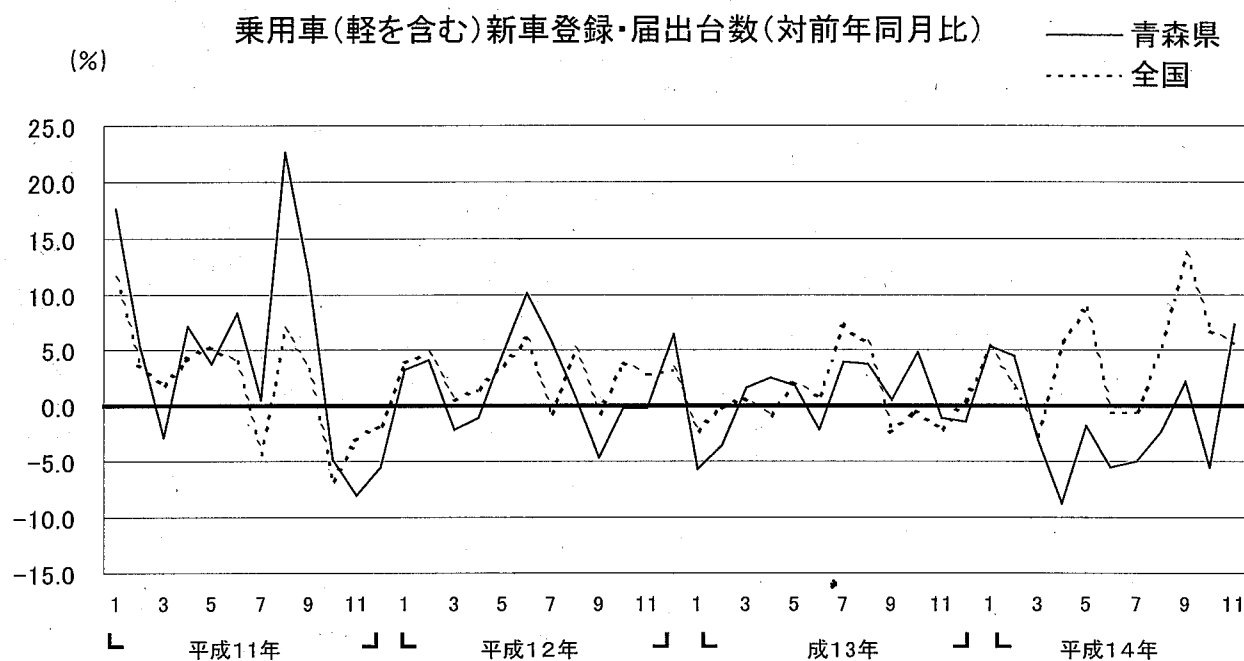
平成14年11月の大型小売店売上高は、全店舗ベースではスーパーの飲食料品の伸びなどにより、前年同月比7.4%増の164億1千1百万円となったものの、既存店ベースでは前年同月比で3.5%減と昨年2月以来連続してのマイナスとなった。

平成14年11月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,135台で、普通乗用車、小型乗用車及び軽乗用車のいずれも増加し、全体としては前年同月比7.3%の増となり、2ヶ月ぶりに前年を上回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

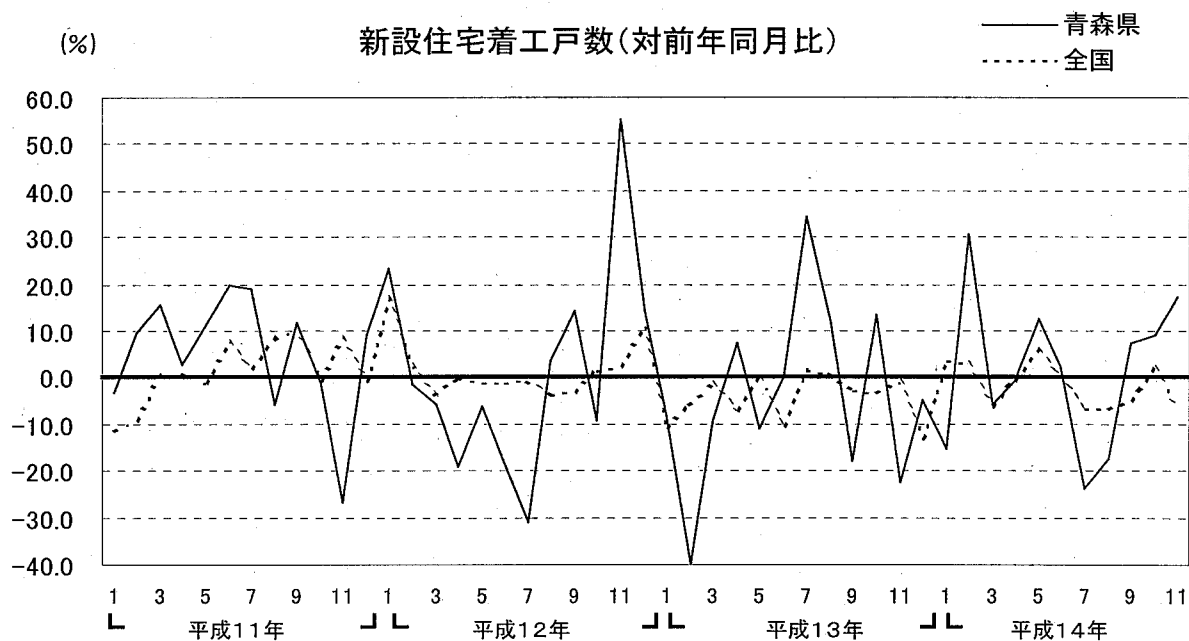
※ 大型小売店は従業者が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、  
日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

## (2-5) 住宅建設

平成14年11月の県内新設住宅着工戸数は1,008戸で、分譲住宅の伸びにより前年同月比17.3%増と3ヶ月連続で増加した。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

### (3) 青森県景気動向指数

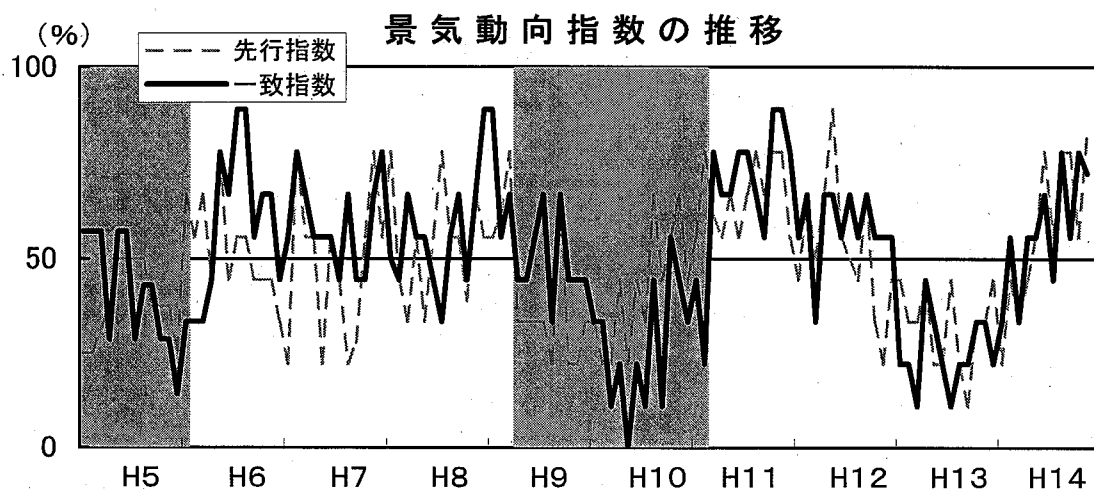
平成14年11月の青森県景気動向指数は、先行指数83.3%、一致指数72.2%、遅行指数64.3%となった。

先行指数は、7か月連続50%を上回った。

一致指数は、4か月連続50%を上回った。

遅行指数は、5か月連続50%を上回った。

11月の一致指数は、生産関連、流通関連等の指標がプラスであったことから、50%を上回った。



※灰色部分は本県景気の後退局面

#### ●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています)

プラスの指標		マイナスの指標	
<b>先行系列 (9指標中7指標がプラス、1指標が保合)</b>			
所定外労働時間指数 (全産業)	5か月連続	企業倒産負債額	2か月ぶり
生産財生産指数	4か月連続		
新設住宅着工戸数	4か月連続		
乗用車新車登録届出台数	2か月ぶり		
新規求人数 (常用)	2か月ぶり		
入職率 (製造業)	2か月ぶり		
建築着工床面積 (鉱+商+サ)	3か月ぶり		
中小企業景況DI		8か月連続プラスの後、保合	
<b>一致系列 (9指標中6指標がプラス、1指標が保合)</b>			
大口電力使用量	8か月連続	雇用保険基本手当初回受給者数	3か月ぶり
東北自動車道IC利用台数	5か月連続	大型小売店販売額 (実質)	6か月ぶり
有効求人数 (常用)	4か月連続		
日銀券月中発行高	2か月連続		
鉱工業生産指数	3か月ぶり		
海上出入貨物量 (八戸港)	3か月ぶり		
電気機械生産指数		2か月ぶりプラスの後、保合	
<b>遅行系列 (7指標中4指標がプラス、1指標が保合)</b>			
常用雇用指数 (製造業)	6か月連続	単位労働コスト (製造業)	4か月連続
信用保証申込金額	5か月連続	1人平均月間現金給与総額	3か月ぶり
勤労者世帯家計消費支出 (実質)	3か月連続		
輸入通関実績 (八戸港)	2か月連続		
消費者物価指数 (帰属家賃除く総合)		7か月ぶりマイナスの後、保合	

資料：県統計情報課「青森県景気動向指数月報」



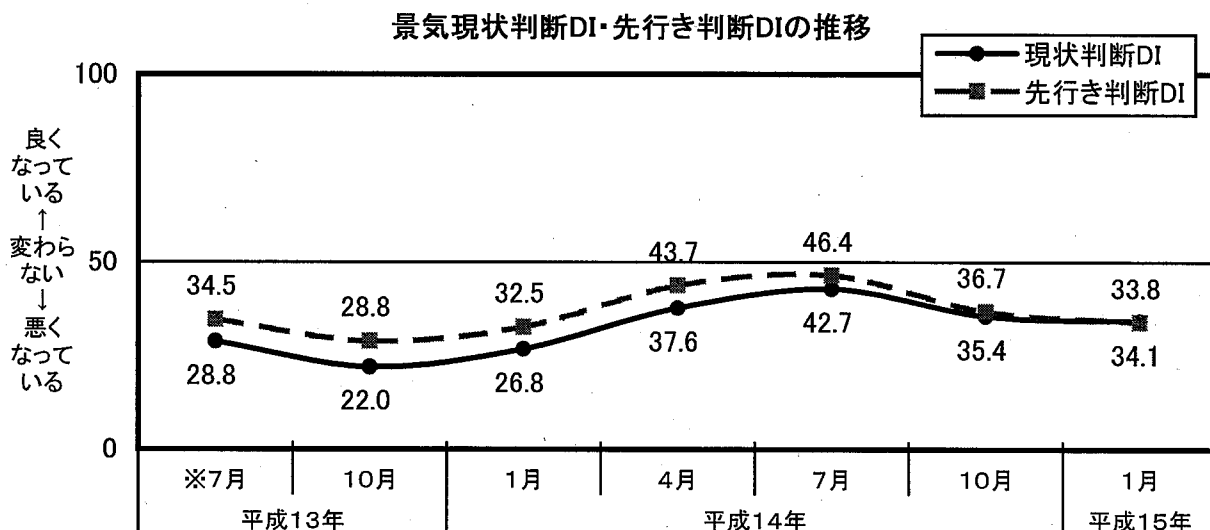
#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成15年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月6日～24日を調査期間とし、回答率91%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは34.1で、前期調査より1.3ポイント減少した。

3か月後の景気の先行き判断DIは33.8で、前期調査より2.9ポイント減少した。

1月期は、現状判断DI、先行き判断DIとも2期連続悪化し、横ばいを示す50を依然として下回っている。



#### ● 3か月前と比べた景気の現状判断

動向	<p>前期調査と比べると、「悪くなっている」と答えた人がやや増加したことにより、1.3ポイント減の34.1となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由を見ると、一部に新幹線開業による影響があったとの声もあったものの、倒産・閉鎖が周囲で見られ空店舗も埋まらないこと、来客数・客単価とも減少傾向にあること、良いニュースが少ないことによる不景気感・不安感増長などが挙げられていた。</p> <p>地区別では、東青及び県南では「変わらない」が減少し「やや悪くなっている」及び「悪くなっている」が増加した一方、津軽では「やや悪くなっている」が減少した。</p>
----	---

#### ● 3か月後の景気の先行き判断

動向	<p>前期調査と比べると「悪くなっている」と答えた人がやや増加したことにより、2.9ポイント減の33.8となり、引き続き横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由を見ると、消費者心理の冷え込み、倒産・失業や増税による家計圧迫、アメリカのイラク攻撃による影響などが不安材料として挙げられていた。八戸市内の大手スーパー撤退による影響を心配する声もある。</p> <p>地区別では、県南では「変わらない」が増加したものの、東青及び津軽では「やや悪くなっている」、「悪くなっている」が増加した。</p>
----	--

資料：県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 新幹線開業の影響で、例年に比べ観光客の入込が多い。(観光名所等=津軽)
- 収益の状況が減少までとは言えないが、横這状態である。また、失業者の増加が目立って来た様な気がする。(パチンコ=県南)
- 忘新年会の利用件数が減少。1件当りの予算が減少。(都市型ホテル=下北)
- 国民に負担を強いる法案だけが大きなニュースとなり、経済の回復に向けた話合いはされていないのか、聞こえない。(広告・デザイン=津軽)
- △ 料金の高い技術が少しずつ減少している。(美容院=東青)
- △ 新幹線開業で一部業界(ホテル・旅行業等)に明るいさざしが見え始めてきたが、地域住民を主顧客とする小売業は、消費者心理の冷え込みや競争激化、デフレ等の要因により、相当体力を消耗している。(商店街=県南)
- × 周辺事業所の閉鎖や人員整理が引続き目につく。昼間人口の減少が、さらに周辺の小売、飲食業に影響を与えていると推察される。(コンビニ=津軽)
- × お客様の人数もそうだが、客単価が落ちてきている。大きい団体客も減少している。(レストラン=東青)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 新幹線八戸開業記念として、八戸市内の飲食業では、イベントを開催することになった。アジア冬季競技大会も開催され、少しは賑うと思う。(レストラン=県南)
- 店の近くは空きビルが多く、ビルからの引越し(家賃の関係)も多い。店が開店した頃に比べ、かなり企業が撤退している。(コンビニ=東青)
- 婚礼・宴会の入りが前年同期よりややにぶい。企業努力でカバーする意気込みで、「変わらない」。(都市型ホテル=津軽)
- 大型店の閉店などで八戸の中心商店街の空洞化が進みそう。屋台村のオープンなど明るい話題もあるが大きな変化はなさそう。(新聞社求人広告=県南)
- 消費税アップ、暮しは今以上に苦しく、悪くなって行くのでは。(レストラン=下北)
- △ イラク、北朝鮮の問題や消費税の値上げなど、個人消費をマイナスさせる要因ばかりだから。(津軽=電気機械製造)
- △ 商品に対するお客様の反応が悪い。直前でないと動きがなく、非常に予想しにくい(売上等)。(旅行代理店=東青)
- × 公共事業の発注減が予想されており、元請・下請業者ともに仕事確保が心配されている。職員の賃金(給与・賞与)切り下げも多く企業のうち実施されており(予定もあり)、景気悪化の要因となる。(建設=県南)
- × 総合的デフレ政策が見えず、不透明感が大である。(タクシー=東青)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、▲やや悪くなっている、×悪くなっている

資料:県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」